

第3回 第4次日野市農業振興計画策定委員会 要点録

日 時:令和5年7月28日(金) 14時00分～16時00分

場 所:日野市役所5階 502会議室

出席者:9名

※敬称略

番号	氏名	種別	備考
1	旗野 利之	市内農業者①	日野市農業団体連合会会長
2	梅村 桂	市内農業者②	株式会社ネイバーズファーム代表取締役
3	馬場 裕真	日野市農業委員会	日野市農業委員会農政部会長
4	代理: 七種 和宏 (田倉 勉)	JA 職員	東京南農業協同組合 日野地区指導経済課営農センター課長補佐 (日野七生地区指導経済課長)
5	金井 望	東京都農業会議	一般社団法人東京都農業会議業務部
6	野島 智佳子	公募市民①	
7	直井 樹	東京都職員②	東京都南多摩農業改良普及センター
8	青木 奈保子	日野市①	日野市産業スポーツ部長
9	吾郷 勝	日野市②	日野市産業スポーツ部都市農業振興課長

欠席者:2名

1	齊藤 佳花	公募市民②	
2	鎌田 純徳	東京都職員①	東京都農業振興事務所農務課

1. 開会

産業スポーツ部長より挨拶

2. 委員紹介

事務局より紹介

3. 第4章前期アクションプラン「1. 日野らしい農業経営」の検討

(1)

111

(委員)

・表向きでは現状維持の数字で書いた方がいいのでは。

(委員)

・「実現可能な数字」の42戸とかで書いてもいいのか。単位も認定農業者数も制度が始まった

当初は(人)だったがいまは家族経営協定があるので(戸)標記が多い。

(事務局)

・戸数にすると、47戸→42戸(R10)・推計値40戸

(委員)

・家族経営協定数が増えたら認定農業者数の目標を横ばいにしても達成できるかもしれないが、推計値は数字として表記したほうがいい。

(委員)

・すぐ下の項目の単位が経営体数なので揃えた方がいい。

(委員)

・数字でいうと横ばいだが、どれくらい減ってどれくらい増えたかの内訳が分からないので、内訳が見える形で書いてもいいのでは。

(委員)

・認定農業者は普通の農家とは違う。目標をもってやらなければいけないので農業者が減少する中で横ばいの目標を設定するのは難しい。

(委員)

・112～116を実施した成果が111の数字に表れる、というのが内訳で見えるのが望ましい。

112

(委員)

・自分も家族経営協定を締結している。締結の可能性があるところはどんどん推進していくのがいい。ただ、農業者にとって協定を結ぶことのメリットがない。

(委員)

・締結数は都内でも増えていて、実際にメリット論も出ている。女性農業者や親元就農者へのメリットを考えていくのがいいと思うが、まだあまり進んでいない。

113

(委員)

・新規就農者を増やすのもそうだが、親元就農者が親の経営とは別の経営を始めるための支援があってもいい。

(委員)

・日野市内だと難しいのでは。

(委員)

・他市では事例がある。

(委員)

・3人増えるのも非現実的に思える。

(委員)

・新規就農者に関わらず、農地貸借はもっと推進していかないといけない。農地を守るという意識を持った方がいい。認定新規就農者の機械導入も資金が難しい。

(事務局)

・貸借件数は他の章で書く予定。(戸)に単位を変更する。

114

(委員)

・若手農業者の会のメンバーのなかでも、即売イベントのメリット・デメリットを考えてしまっている状況。即売イベントを増やすことより、農業者同士の交流や勉強会の開催の必要性を感じている。

(委員)

・勉強会の開催について市としてサポートできることは農総研を紹介することなどが考えられる。今後10年を考えるとJA 青壮年部もどうなるかわからない。細く長く活動してほしい。

(委員)

・いま一番やる気が出るのは共同の販路。

(委員)

・発足したときはJA や市を頼らない自立した組織を目指していたが、実際やってみると難しい。

(事務局)

・回数目標から実施目標に変更する。

115

(委員)

・独立・起業支援はどういうものか？新しく加工業をはじめるとかか。支援件数にしたほうがいい。

(委員)

・この指標だと女性は加工品しかやらないように見える。農産物を利用したカフェを開くなどもあり得る。

(委員)

・事業化支援にしてはどうか。

(委員)

・女性農業者の「経営力向上」も追加してもいい。

116

(委員)

・妊娠・出産の事業が東京都ですでに始まっているがまだ実績はない。

(委員)

・介護もいれたらいいと思う。東京都の補助金では交付対象を女性農業者に限っていない。

(委員)

・介護も入れるとかなり進んだ制度になるのではないか。

(事務局)

・タイトルの「女性」を削除し、介護を追加する。

117

(委員)

・年間を通して参加する体験農園も大事だが、気軽に参加できる収穫体験の支援をしてもらえると農家も参入しやすいのではないか。

(委員)

・この事業に力を入れればもっと園数も増やせると思う。

(委員)

・他市では農地を貸借して体験農園の区画数を増やしているところもある。リピーターが多いのも特徴の一つ。

(委員)

・個人に限らず、学校や保育園に貸し出すというのもあってもいいのではないか。

(委員)

・日野市では開設に係る費用の補助もあるので積極的に周知を図りたい。

(2)

121

(委員)

・ブランディングが指す範囲は広い。ロゴマークの作成はブランディングのうちほんのわずかである。「トータルブランドのプロデュース」などの文言にした方がいいのでは。

122

(委員)

・生産数は個人が行ったものだけをカウントしているのか？市が主体となったものも含まれているのか？

(事務局)

・どちらも含んでいる。

(委員)

・「6次産業化」とは書かないのか？

(事務局)

・「6次産業化」だと、農業者が生産しているもののみカウントすることになる。農産物が原材料として提供され、加工品になっているものもカウントしたいので「加工品」としている。

123

(事務局)

・(戸)に単位を変更する。

(委員)

・これは農家だけの件数なのか？種の保存だと学びの面でも相性がいいので、学童農園で栽培している学校などもカウントしてもいいのではないか。

(委員)

・平山陸稲は学童農園で栽培している。

(委員)

・江戸東京野菜はこの2つのみなのか？

(事務局)

・日野にゆかりがあるのがこの2つ。

(3)

・狭小→貴重に変更

131

(委員)

・ニーズがないと動きようがないというものもある。件数表示にしてしまうと大変になるかも。

4. 事務連絡

「日野市農業経営基盤強化促進基本構想」の改正案について事務局より説明

5. 閉会